

なみきり

茨城県笠間市福島五五二
電話 〇二九六一七二一三七四二
URL <http://www.wamamankirine.net>

第四号
平成25年7月28日
発行 岩間波切不動産

宗教法人取得に向けて

寺、建立当寺は信者さんも少なく、後を継ぐ者も居なかったので、大久保の自宅敷地内で宗教活動をすればよいと考えていましたが、現在

(1) 本尊不動明王様のお力が増大し、多くの願いが成就するため

(2) 信者さんが年々増加し

(3) 法忍さんと言う立派な跡取りができ、守快さんという若い僧侶が増えたことによりおかげさまで、波切不動寺もお寺としての形が整いました。

そこで、この立派なお不動様のお力を後世に残すため、宗教法人を取得しなければと思い宗教法人取得を発願しました。しかし簡単には宗教法人を取得できません。多くの条件を満たさなければなりません。主な条件を挙げてみますと

(1) 宗教活動を三年以上続けていること。信者さんが一定人数いること。

(2) 礼拝場所・施設があり、借地や抵当に入っていないこと。(3) 僧侶がいて伝法灌頂(僧侶としての資格)を取得していること。

以上の様な条件が24項目あります。それを全てクリアしないと取得できないのです。波切不動寺は(2)の礼拝場所・施設はあるのですが、借地・抵当の箇所だけがクリアできないので今まで宗教法人の申請ができなかったのです。

平成18年お堂は、大久保聖翠・個人の退職金と銀行借入れによって建てられました。

お堂の場所は、大久保家の所有地なので借地ですし、お堂は銀行の担保に入っています。

今の場所で宗教法人の申請をすると大久保家の、家屋敷全てが宗教法人のものになってしまうため、寺の跡取りが聖翠の子供でないの、大久保家としては大変困る訳です。上記理由から、寺を別の場所に移そうと考えました。はじ

めに石岡市東成井の土地、一昨年柴燈護摩を修した所で。広くて形が良く、場所の説明がしやすい。交通の便もよいが土地代が高いのが難点でしたが、半額を銀行借入れで購入しました。この土地に新しくお堂を建てて法人を取得しようと動き始めたのですが、入り口が狭く開発行為ができないことが判りました。不動産屋もそのことは承知していて、道を広げる約束してくれても一向に実行しません。このことに加えて、税制上、波切不動寺が易の祈禱所として登録してある関係上、事業税・消費税等を納付する義務があり、税金を支払うと寺建立の資金が残りません。これらのことから早急に宗教法人を取得しなければ、寺の存続もできなくなると考え、石岡市東成井の土地を売却することとし、安い土地を探し始めたのが昨年の12月です。北東の方向に安くて築38年の家がある土地を見つけました。ここで法人申請ができると考え購入しました。3月に地鎮祭をして5月4日に柴燈護摩を修しましたところ、地元地区から嚴重抗議を受けました。私共の宗教活動は一切認めないとの強気な姿勢で、話し合いにも成りません。聖翠・法忍も嫌気を強く感じ、この場所では活動不能と判断しました。

聖翠の焦りなのか、時期尚早なのか、判断ミスなのか、自暴自棄が一ヶ月程続き、何をやる気力も無くなつて、法人申請もあきらめかけていました。そのような時に、7、8年前に来ていたお花とお茶の先生から電話があり「先生お元氣、なんだか先生が意気消沈したお顔で夢に出てくるの心配でお電話しました」言うのです。「ありがとう、元氣なだけで何かがんばれないの」と話す。「大変、すぐ行くね」と電話を切って30分後に笠間の事務所にやってきた。簡単にお寺建立の場所を悩んでいることを話すと、場所を見せてと言うので石岡市東成井の土地、笠間市押辺の土地に案内しました。(この方は時々すごい靈感を発揮する人なのです。)

すると「東成井の土地はとても気が錬れていて気持ちが良いと絶賛するのです。押辺の土地は押んでも押んでも気が散乱してしまうよ、ここに建ててはお寺は栄えないよ。神社・仏閣は木々に囲まれてないね」と言うのです。

そうなんだと気づいたが、「ならなんでお不動様はこんな土地を買わせたのかナ」との疑問が先に立って「ここで頑張ろう」と言う気にはならないでいました。その日の夕方暗くなるまで、東成井の山の切り株に腰かけて、ボーっとしていました。次の日も次の日も山に入って切り株に座っていました。不思議に涙は出ませんでした。3日目の夜、浦井さんが荒神供に来て「朝3時頃、夢を見るん

ですよ。偉そうなお坊さんが出てきて西を忘れるな、西を忘れるなと言うんです。誰かと思ってお堂を見渡したらこのお大師様ですね。毎日3日も連続で出てくるんですよ」え、驚きのあまり声が出ませんでした。

なら、迷わず誰がなんと言おうと東成井の土地にしよう。宗教法人申請ができなくても時が解決してくれるかもしれない。自分に言い聞かせ、決断して『浦井工務店社長・浦井安正氏』に相談し、お寺の敷地と言うだけではなく(近隣の住民・信者さんの公園にまじりよう)昔から作りたかった「遊びの森」何もしてないと、何も考えていないと腐ってしまう私が復活しました。公園の名前は【遊びの森です】春は椿・こぶし・桜・さつき・つつじ・初夏には山ぼうし・しゃらの花が咲き、そしてブルーベリーやイチジク・さくらんぼの実がなり、若葉が茂る。夏は木陰で涼をとり、秋はイチヨウ、もみじの紅葉を眺め、ハウスでブドウを摘み、冬は礼拝堂でストーブを囲み、焼きたてパンとハーブティを飲みながら宗教の話で盛り上がる。とても贅沢な空間・時間・自然との触れあい。心を癒してくれる『自然の癒しのスポット』の誕生です。また未完成、でも素敵です。

この原稿を書き終わった数日後、東京から宗教法人専門の長谷川弁護士が来て、この森を見て感激して「ここで宗教法人を申請しましょう」と言ってくれました。

土地の問題も設計士が石岡市にお伺いに行ったところ、元八郷町なので八郷町の規則に則って、と言うことになり規制が当初より随分緩和させて、何とか礼拝堂を建立すれば申請できる見通しがたつたこと、なんだか嬉しさと活気がみなぎって来ました。

このようなことなのですが、一度【遊びの森】に足を運んで見て下さい。

樹木の御寄進も受け付けています。お寺にご相談下さい。

※押辺の土地は早急に売却とを考えています。約2600坪で雑地、40坪の家があります。購入したい方がありましたらご紹介下さい。この土地は事業は繁栄する土地です。

運送業・土木工事業・産業廃棄物業・ソーラ発電設置事業等に向いています。



思いが明日をつくる。

明日のこと、一ヶ月後のこと、1年後のこと、想像していませんか？ 強く想って行動すると想ったようになつていく。そんな事例のひとつをこの号では紹介します。

それは、他でもありません大久保先生のことです。大久保先生が幼稚園の先生をしながら、お坊さんの修行をしていたときのことです。先生をしながらで、息子さんたちもまだ高校生でしたので、自分の時間なんてほとんどありませんでした。修行をするには、眠る時間を削って修行をするしかありません。強豪サッカー部に所属している息子さんがいましたので、始発の電車に間に合うように、早朝にお弁当をつくって送り出さなくてはなりません。また、修行をするからといって、家事をしなくていいわけではありません。家事や仕事をしっかりこなした上で、眠る時間を削ってお不動さんを拝んだのです。朝は2時30分起床。そして井戸端で水をかぶります。その後2時間ひたすら読経します。終われば休みもなくごく普通に家事をして出勤します。

私が小学生だった頃このような生活をしている先生の姿を見て、「よくつづくなあ。すごいなあ。」と思ったものでした。そのときよく先生が言っていたのは、「裏山にお堂を建てようね。」「困った人、苦しんでる人がいつでもお不動さんに助けを求めに来られるお堂を建てようね。」ということでした。私は正直豚小屋が建っている、竹山であった裏山を見ながら、「お堂を建てるなんて、そんな簡単にいかないのではないか。」と思っていました。

しかしどうでしょう、時は流れ伝法学院から帰ってくると立派なお堂が建っていました。中に入ればお不動さんを中心に祀り、立派な荘厳がありました。そこで私は「自らの意志・行動の力」「熱烈な信仰から生まれるお不動さんの力」「世の中の人の協力」の三つの合わさったときは成るといふことを目の当

たりにしました。

まず想うこと、強く想うこと。そして行動することから全てが始まります。大久保先生も人間です。私たちと同じ人間なのだから大久保先生にできて私たちにできないはずがありません。想うこと。強く想うこと。動くこと。早く動くこと。信じること。強く信じること。もう、ことは動き出したはずですよ。

お地藏様のお話

「お地藏様」ほど私たちに親しまれた、また、私たちを救ってきた仏様は、他におられましようか？

お釈迦様が覚りの世界にお帰りになられて、早2000年。次の佛である弥勒様がこの世に出現されるのは5670000000年先のこと。その間は、肉体を持った佛は私たちの前に来てくれません。

明恵上人と言う聖者はおっしゃいました。「我々は母のない子牛のようなものだ釈迦如来に会えなかったことは恨み中の恨みだ」

だからこそ弘法大師様は、身命を賭け万里の波濤を越えて、密教を我が国に伝へ、宇宙に偏在する佛とながる方法を求めたわけでありませう。

このような世界の中にたった一人止まって、今日も弱者に手を差し伸べるために旅を続ける尊い御仏がいます。(ちなみに観音様は、他方世界：この世とは違う次元から来る援軍ですよ)

坊主頭に杖をついた旅姿 誰でしょう？

そうです 「お地藏さん」です。

「私たち佛が居ない間、この世界のすべての命はあなたに託そう」という、お釈迦様の遺言を受け、覚りを開く実力がありながら、迷いの世界に踏みとどまって、袈裟一枚のお姿で、神々世界から地獄の底まで「救われぬ存在」のために昼も夜も関係なく駆けめぐる尊い仏様な

のです。「地獄にほとけ」とは、なにを隠そうお地藏様のことなのです

救われぬ存在とは自分の意志では、救いを求められない弱者です。自分で「助けて」といえる状態は、まだまだ恵まれているんですね。

「一つには地獄に堕ちた皆さん」です。なぜか？ 自分が地獄に居ることさえ気づけないのが、地獄の一番の苦しみです。

お地藏さんは、苦しみをみんな肩代わりする「代受苦」を一番の願いとされています。

二つには「弱い立場の皆さん」です。草木も動物もお魚も、みんな同じ命です。人間も変わりません。ところが言葉や話を話せません。今日もたくさんの命が無言のうちに、強い生き物に食べられ、人間に殺されています。

同じ命なのに生きてままべられる魚も、切り倒される大樹も、踏み潰される虫たちも断末魔の叫びをあげているでしょう。しかし、その声は私たちの耳には入りません。けれどもお地藏さんは、しっかり聞いています。

お地藏さんは、そんなみんなの為にどこにでも行きます。三つには「無惨に殺されてしまった皆さん」です。中絶されてしまった**水子**は悲惨です。子供は親しか助けを求められません。頼るべき親に殺される。そんな苦痛が他にありません。もう誰を頼っていいのかわかりません。また、不慮の事故や戦争によって命を失った人の大部分は、自分が死んだと言う自覚が無いようです。ただ、死んだときの絶望と苦痛の記憶に捕らわれたまま、どうしていいかわかりません。お地藏



様はそんな皆さんの為に寄り添ってくれます。お地藏さんは、どうやったら私たちを助けてくれるのでしょうか？常識的に考えても、正しい行いや修行のお供えが必要なのではないでしょうか？なんとお地藏様に限っては、それらが無くても良いのです。

「お地藏さんの姿が目に入ったら、少し礼をしただけで、お地藏さんは、その人を救ってください」と『地藏菩薩本願経』書かれています。私たちの祖先は、日本中いたるところの辻・辻に、お地藏さんを石に刻んでくれました。仏像としてはダントツ一位の多さです。みんなが救われる機会を造るために、努力した先人達の思いをかながみるに、喜びと感謝の念で胸がいっぱいになります。

そんなわけで、お地藏様の姿を見てほんの少し頭を下げただけのことでも甚大なる恩恵が与えられるわけです。いわんや、そのお姿を造って、たくさんの人々の目に触れ、心に触れる機会を創るという事は、どれくらい大きな巨大な功德を作ることになるか、想像もおよばないことではありませんか？ 自分自身のため・他のため。すでにこの世を去った人のため。迷惑をかけたたり命を奪ったりしてしまつた存在のため。

『地藏菩薩本願経』によると他の為に撒いた功德の種類も、7割は撒いた人・即ち自分に還つて来ます。子孫のために、美田を残さなくても、全ての命のために福田を残すことは出来ません。今・またとない機会が皆様の前に現れました。

盂蘭盆会・先祖供養の御案内

8月13日〜16日までお盆の期間です。

お塔婆を建ててご供養しましょう。お盆が終わった後、お塔婆は1年間お地藏様の前で拝まれます。

お盆の期間中は、毎日夕方6時より護摩にて各家の塔婆を護摩壇の前に立て、施餓鬼供養を行います。

皆様どうぞご参加下さい。お塔婆の申し込みを受けつけております。

塔婆一体5000円です。別紙にご記入の上お申し込みください。7月10日までです。

施餓鬼供養とは

餓鬼道にあつて苦しむ一切の衆生(しゆじよう)に食物を施して供養すること、特にその法会をいう。《施餓鬼会》の略。期日は特に定まらないが、年中行事の一つとして*盂蘭盆会(うらばんえ)に行われることが多い。盆には家の先祖の精霊(しよりよう)を祀るほか、ともに訪れてくる無縁仏や餓鬼のためにも施餓鬼棚(精霊棚)をつくつて施しをしなければならなかった。一般に餓鬼は供養するものがない無縁仏とか祀るものがない霊魂として観念されたのです。

盂蘭盆会とは

目連(もくれん)尊者は死んだ母親が*餓鬼(がき)世界に堕ち苦しんでいるのを発見し、仏の教えに従つて7月15日、僧達が総*懺悔(さんげ)の*自恣(じし)をす

【御嶽山登拝修行の御案内】

日 平成 25年 8月 31日～9月 1日
費用 一人三万円(交通費・宿泊費・食事代)
発 午前 4時
その他 詳細につきましては、参加者にお知らせいたします。大型バス2台を予定していますので、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

●●● 第二回 大久保先生の梅レシピ! ●●●

『梅干しの効能』

先日、法忍先生が自転車乗り夢中になり、寝不足と酷暑の中、筑波山に登りに行き、40キロ程走りました。途中悪寒と震え、冷や汗、脱力感に襲われ意識が薄れてゆく状態になりました。

一緒に走っていた救急隊の龍君パパが「熱中症だ」と気付き、持っていた『梅干し』を食べさせました。すると寒気・震えが止まり頭がすっきり快調に、無事帰ることができました。恐るべし《梅干しパワー》



〈梅干しの作り方〉

- | | | |
|----|----|---------------------|
| 材料 | 梅 | 5 kg |
| | 塩 | 500 g (1割塩がいちばんベスト) |
| | 焼酎 | 少々 |

- 造り方
- ①梅を良く洗い水気を切っておく。
 - ②漬物樽に梅を入れ、梅に塩をふる。
 - ③落とし蓋をして梅と同量の重しをする。
 - ④水が上がったら、重しを1kgにする。
 - ⑤3週間ほど漬けたら、天日に3日間干すと出来上がり(干しがあがった梅に霧吹きでかける)

塔婆を建てる意義

私たちが現世で積んだ功德(善いこと)を、亡くなった方のために廻向(廻らせる)ことのできる機会です。ご先祖様のために、縁のない方のために、塔婆を建てましょう。

るに当たり食物などの布施をしたところ、その功德で母親は救われたという。

盂蘭盆経に出る語「(盆) (お盆)と略称する。正しくは(烏藍婆拏うらばんえ)と書く。共にサンスクリット語ulambanaに相当する音写で、(倒懸(とうけん))と漢訳され、さかさ吊りの苦痛を意味するといわれる。近年、イランの言語で靈魂を意味するウルヴァン(Urvan)が原語だとする説もある。盂蘭盆経に説くところでは、*目連(もくれん)救母説話に由来し、ともかく祖霊を死後の苦惱世界より救済する(盂蘭盆会え)の仏事を生み、先祖供養に欠かせない仏事となっている。

シリーズ

基礎からの
仏教

前回は四聖諦という幸せになるための方法を勉強しました。強い明確な動機と、そうなるための条件を見つけて出し、それに見合った努力をすることによって結果が得られるというものでした。この教えは仏教の神髄とも言えるもので、仏教のいろいろな教えはこの展開といっても過言ではないでしょう。しかし我々はこの教えを知っていてもそれをなかなか正しく実践できません。

命あるものすべて、幸せになりたいと願わないものはいないはず。むしろ幸せの実現こそ生きる意味なのではないでしょうか。しかしその方法を知らぬが故に、知らず知らずのうちに不幸のほうへ歩みを進めています。それは何故なのでしょう。

仏教は「苦」の発見により始まりましたね。その原因（集諦）は無明であるといえます。つまり智恵のない状態、知らないということです。この苦の原因である無明の正体とは、「執着」であると仏教はいいいます。この言葉は誰もが一度は聞いたことがあるでしょう。この執着こそが我々が思い通りにいかない原因なのです。過剰に自分に執着する。我執、自己愛着ともいいますが、これがあるから、これに気付かないからこそ上手くいかないのです。

大抵の人が上手くいかないといった経験をお持ちだと思います。そういった経験をよく思い返してみると、その原因はこの自己愛着というものに行き着くでしょう。私たちはこの存在を知らぬが故に、幸せを求めることを自己愛着より生ずる欲望を満たすことと混同しているのです。そうして自己中心的な行動をしてしまっているのです。この勘違いな行動は周囲をも巻き込み、「人を呪わば穴二つ。」自分にもそういった行動の

つげが廻ってくるのです。

私たちは普通、自分自身が大切です。しかし私たちは自分自身だけでは生きていけず、他者との関わりによって生きています。ここに気付くことが大切です。自分自身が大切なならば、他の人も自分自身が大切ならずです。みんな幸せを求めて歩んでいます。だから、「自分さえ・・・」という考え方は上手く行くわけがないのです。

もう一度仏教の始まりをおさらいしましょう。なぜお釈迦さまが修行をしてお覚りをひらかれ、我々にその教えをお説きになったのか。

「一人でも多くの人々の悩みを解決したい。みんなをその苦から解放したい。」という大いなる慈悲、悲しみの心からです。ただ自分のために修行をしたのではないのです。他者のために修行をし覚られ、教えをお説きになったのです。

ここでわかるように、幸せとは他者を害さず、むしろ他者の幸せのために努力することによって実現します。仏教ではこういった心のことを「慈悲心」といいます。この心を起こすこと育てることが、我々の苦の原因である無明や自己愛着といったものを対治する手段となります。非常に難しいことですが「自分には無理」とは思わずに、「自分に出来ることはしていい」と思ってください。

挨拶もその手段といえるでしょう。「おはようございます」と笑顔で言われて自分の悪い人はいないはず。笑顔で挨拶をされたらとても気持ちがいいものです。そうしたら自分も「おはようございます」と返しませう。ただやるのでは無くて、心をこめて。心ある行動にこそ力があります。嬉しさ、喜びがまたそれを生むのです。

私たちは必ず個人の長所というものがあります。それを生かし、周りや環境に役立たせていけば必ず上手く行きます。そういった行動を繰り返していくうちに、自己中心的な行動は少しずつ無くなっていくはず。 「なぜ上手くいかないんだろう。」と思ったときは、よく自分の心を観察してみてください。すべては自分の

心の内にあります。自分の心を育て、他者をいたわる心を育てましょう。これこそが幸せを実現させるための鍵です。

お大師さまも「夫れ仏法遙にあら非ず、心中にして即ち近し。真如ほかに非ず、身を捨てていずく何んか求めん。」と説かれております。真実（幸せになるための道）は自分の中にあるものなんだ。この身があつてこそそれを得られるのだと。

よく心を落ち着かせ、自分と向き合えばその問題は解決すると仏教は教えています。原因は必ず自分の中にあります。それをお釈迦さまは四聖諦で、お大師さまは「夫れ仏法遙に非ず・・・」という言葉で表しているのだと思います。

このことを心に留め置き自己中心的だった自分を改め、心を訓練し育てていきましょう。そしてできる限り他者のため、みんなのために努力しましょう。そうすれば幸せの実現へとつながるはず。そう

つづく

四聖諦

(ししょうたい)

四聖諦とは四つの道のことをいいます。それは苦諦、集諦、滅諦、道諦の四つです。具体的にいうとこうなります。

苦諦 (くたい)

苦しみ(思い通りにいかない)があるということを知る。

集諦 (じったい)

苦には原因があるということを知る。

滅諦 (めつたい)

その原因より起こる苦を滅することができるということを知る。

道諦 (どうたい)

その為の方法があるということを知る。

